

北海道自立支援協議会人材育成部会、地域づくりコーディネーター部会共同ワーキンググループ 開催結果（概要）

1 実施状況

(1) 開催日時

第1回目：平成28年11月28日（月）18：30～20：30

第2回目：平成29年2月17日（金）18：00～20：00

2 構成員

氏名	所属
日置 真世	人材育成部会員
山本 彩	人材育成部会員
戸田 健一	地域づくりコーディネーター
佐藤 直美	地域づくりコーディネーター
安井 博子	地域づくりコーディネーター
林 健一	札幌市基幹相談支援センター

主な意見は次のとおり。

(1) 講師等養成研修について

- 今年度実施した講師等養成研修については、研修の主旨が理解されておらず、書面のみならず口頭も活用し十分な周知が必要。
- 書面での周知については、様々な機会と同じ図により説明することで、広く認知されるようにするのがよい。
- ファシリテーター研修と講師研修に分けて実施することで、参加者に主旨が伝わりやすいものとなる。

(2) サービス管理責任者等養成研修、強度行動障がい支援者養成研修について

- 現場を空けなければならないため、講師やファシリテーターとして協力いただきにくい。
- 札幌市には、講師を行える人材が多くいるので、掘り起こすことによって人材を増やすことができるかもしれない。
- サービス管理責任者研修と強度行動障がい支援者養成研修の講師養成は分けて考える必要がある。
- 強度行動障がい支援者養成研修については、講師等養成研修による養成はむずかしい。現場の中でスキルアップをしなければならない。
- 研修規模の拡大となると事務局の負担が大きくなり、拡大できない。事務局員には研修の内容や制度についての理解が必要で、パートタイム職員での対応は限界がある。

(3) 地域における人材育成の質の向上を図るための方策について

- フォローアップ研修のテーマをどのようにするか悩む。何がニーズとしてあるのか見えない。
- どこにターゲットを絞るのか。やる気のある人を応援するのと、義務的に受けてもらうのかでやり方や研修の作りが変わる。また、国の示す更新研修がどうなるかにもよる。
- 研修に関わる人が定期的集まるような体制をとるのがよい。
- 初任者は、講義・演習の形式やメリット・デメリットをいくつか示して、それを組み合わせで実施していただくような形がいい。
- フォローアップ研修は、作り上げるところから示す必要がある。